

長期戦略:テーマ 「ICTによる教育・学修支援」

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

構想調査 独自定性 1(3)

長期戦略テーマ の責任者 (統轄部署)	小谷高等教育推進センター長 (高等教育推進センター)	実施計画の 担当部署	高等教育推進センター(TF 質保証)
---------------------------	-------------------------------	---------------	--------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)		取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(10)-⑧ (SGU4-3)	(SGU4-3) ポートフォリオの開発	2014年度	2023年度	必要なし	不要
内容					
<p>【目的】</p> <p>国際的通用性を担保した本学独自モデルのポートフォリオを完成させることにより、学生の学修行動の振り返りを促進し、教育の質保証を推進させる。</p> <p>【内容】</p> <p>2012年より「実践型“世界市民”育成プログラム」において、プログラム登録者を対象としたポートフォリオを構築し運用してきた。これまでの運用経験や知見を活かし、一部のプログラムを対象としたポートフォリオを全学的なものへと進化・発展させる。2019年度のダブルチャレンジ制度開始に向け、2017年度より試験運用を開始し、利用者からの要望反映や、ダブルチャレンジ制度で必要な項目を追加するなどした上で、2019年度に本運用を開始させる。</p> <p>全学的なポートフォリオの開発にあたっては、既存の「実践型“世界市民”育成プログラム」のためのポートフォリオ以外にも、学内のニーズを再把握した上で、ポートフォリオにどのような情報を記載するか検討を行い、学生の学修行動の振り返りをより一層促進できるものを目指すとともに、既存システムとの接続性を考慮したものとす。</p> <p>ポートフォリオ稼働後も、システム改善を進める。</p> <p>また、ポートフォリオの活用促進のためには、学生システムとの連携が不可欠であることから、学生システムの次回更新(2018年)の要件定義に、ポートフォリオの担当者が参画し、2019年度の本運用開始時に、連携運用を行う。</p>					
進捗状況を測る 指標	指標名	定義・算式			
指標1	ポートフォリオの利用率	全学部生のポートフォリオへの記入率			

目標1<指標1>ポートフォリオの利用率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—	—
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—		
実績	—	—				

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
ポートフォリオの 開発	策定段階	開発開始	開発	開発完了	運用開始	機能追加
	2023年3月 末段階	調査	開発開始	開発完了	試験運用開始	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	本運用開始 機能追加		サーバ等リプレース		ポータルへの統合
	2023年3月 末段階	本運用開始	継続運用	—	リプレース検討	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2023年3月 末段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費

2014年度承認

2015年度承認

2016年度承認

2017年度承認

2018年度承認

2019年度承認

非公開

人員・人件費

2014年度承認

2015年承認度

2016年度承認

2017年度承認

2018年度承認

2019年度承認

非公開

経費

2020年度承認

2021年度承認

2022年度承認

2023年度承認

2024年度

非公開

人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度
非公開					
経費	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	左記以降
非公開					
人員・人件費	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	左記以降
非公開					

4. 進捗状況・得られた成果

2016年度	<p>■独自定性1(3)ポートフォリオの進化</p> <p>2016年度は、予定通り4月に稼働し、1年生のアクセス数は95%を超える等、順調に推移している。今後は機能改修を加えながら、2年生以上のアクセス数の増加、記入率の増加を図りたい。</p>
--------	---

2017 年度	2017 年度は、運用 1 年目にあたり、1 年生へのスマートフォンアプリ導入のアプローチは、オリエンテーションを通じて順調に進められた。また、目標テンプレートなどの機能追加のほか、海外渡航時の緊急連絡先情報の登録、K.G.合格者 NAVI(受験生向け機能)といったポートフォリオ活用の提案が、学部や高大接続センターから出るなど学内での認知も広まった。
2018 年度	2019 年度からの本運用開始に向けて、データ一括出力機能の追加と、キャリア相談のチャットボットへのリンク追加を行った。また、全学部の新入生オリエンテーションに出向き、ポートフォリオの概要説明と新入生アンケートへの回答の呼びかけを行った。
2019 年度	機能追加を完了し、本運用を開始した。WG を設置して活用促進について検討する予定だったが、新たな検討課題が浮上してくることが予想されたため、それが明確化するのを待っていた結果、WG 設置に至らなかった。
2020 年度	2020 年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、積極的な利用促進に向けた対策を実施できなかった。「合格者 Navi」の利用対象がほぼすべての学生に拡大しているが、そこからポートフォリオへの利用継続につなげられていない。
2021 年度	夏季にサーバのリプレースを行い、LUNA サーバと同様に学外のデータセンターに移設した。言語教育研究センターによる GTEC や TOEIC® L&R TEST 等の語学スコア登録、大学図書館の入館情報、学生活動支援機構によるトレーニングセンターの利用状況登録など、各部署で定期的に情報が登録された。また、社会学部では研究演習 I 選考として、教育学部では実習の申込みにあたり、ポートフォリオのアンケート機能を活用した。これまでに行なってきた活用方法であり、積極的な利用促進に向けた新たな取り組みは実施できていない。

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	2017 年 4 月に仮運用を開始し、利用率・記入率を向上させるため、学生にはキャンパスライフ ABC や学部のオリエンテーションを活用し、学内周知を図った。結果として、新入生のアクセス率は 95.5%(5 月末)、新入生のアンケートの回答率については 39.7%まで伸ばすことができた。また、マニュアルの整備や FAQ の作成等、サポート体制も早急に構築する。その上で、ダブルチャレンジプログラムなどに対応したカリキュラム改革が予定されている 2019 年度に向けて、先行的に取り組むことができる学部や部局とポートフォリオの利用を促進することができる試行的な取り組みを 2018 年度に実施できるように向け、7 月末までに学部宛にヒアリングを行なった。ヒアリングの内容を踏まえ、2017 年度の試験運用開始後も、カリキュラム改革への対応のほか、計上している予算の範囲内でシステム改修を行うことにより、機能面だけでなく、利便性も向上させ、利用促進を図っていく。
2019 年度	スマートフォンアプリのインストール状況や、新入生アンケートの回答においては、学生の反応は良い反面、ポートフォリオ全体としてみると、学生への定着については、まだ十分でない。今後、初年次教育科目などにおいて、ポートフォリオの活用方法を説明する機会を設けるなどといった取り組みの検討が必要である。
2020 年度	サーバ機器のリプレースを行う。これまでは機器の一部を LMS と共用してきたが、LMS の導入業者が変更となったことから、ポートフォリオ単独ですべての機器を導入する必要がある。また、システム運用保守費(常駐費用)の値上げが予定されているため、常駐業務要件の変更も検討する。ポートフォリオアプリのダウンロード数は多いが、学生の活用が広がっていないことが課題である。そのため、ポートフォリオの活用促進について検討する WG を 2019 年度に設置する。2020 年度は WG での検討結果に従って活用促進のための取り組み(システムの機能追加・改修を含む)を行う。

2021 年度	2021 年度にサーバ機器のリプレースを行う。 2023 年度のシステムリプレースに向けて、ポータルシステムの要件を整理する必要がある。
2022 年度	情報化改革本部のもとで 23 年度以降のポートフォリオの在り方を検討予定。 「合格者 Navi」機能については、2023 年度入試から別システムで運用予定。
2023 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	旅費・外注費(ポートフォリオ開発・運用)については、＜一部保留＞。他大学調査旅費を予算化しますが、ポートフォリオ構築のための外注費用は保留とします。ポートフォリオの仕様が定まった段階でグローバル化推進本部が導入の是非について最終的に判断し、当該予算はその時点で検討します。 人件費については、予算化を見合わせます。
2015 年度	外注費(ポートフォリオ開発・運用)、システム連携等開発費については、概算費用の範囲で計画を承認します。ただし、「優先順位④まで、ハード共有」を条件とします。 ※2017 年度以降の機能改修については、その都度グローバル化推進本部にて承認を得てください。 ※構築後の保守費についても原則として承認。
2016 年度	機能改修費については、現時点では具体的な計画がないため予算化を見送ります。今後必要が発生した場合は、グローバル化推進本部会議の了解を得たうえで予算外申請をしてください。
2017 年度	機能改修費については、2016 年度と同じです。 派遣職員については、人事課で別途対応します。
2018 年度	現在実運用しているポートフォリオに関わる運用・保守費等を認めます。機能改修費用については、具体的な必要性が生じた場合、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。なお、人員増については、8-(2)-②の増員に含めて、判断します。
2019 年度	現在実運用しているポートフォリオに関わる外注費(運用保守費)、システム連携等保守費、サーバ保守費、機能改修保守費を認めます。 ただし、機能改修費については保留とします。詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG にて判断いたします。
2020 年度	現在実運用しているポートフォリオに関わる外注費(運用保守費)、システム連携等保守費、リプレース費用を認めます。 機能改修保守費については、昨年度改修分までの費用を認めます。 機能改修費については保留とし、内容詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG の了承を得て、予算外申請してください。

2021 年度	現在実運用しているポートフォリオに関わる外注費(運用保守費)、システム連携等保守費を認めます。 機能改修保守費については、昨年度改修分までの費用を認めます。 機能改修費については、内容詳細が決定した段階で、将来構想推進 WG の了承を得て、予算外申請をしてください。
2022 年度	現在運用中のポートフォリオに関わる外注費(運用保守費、認証部分構築費)、システム連携保守費を認めます。

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオシステムの構築は完了しているが、利用促進へ向けた検討が十分になされていない。 ・「合格者 Navi」を含む、ポートフォリオとして保有すべき機能を洗い出し、学生生徒システム等他のシステムにて統合可能かどうかの検討が必要。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・(2023 年度学生生徒システムリプレースにあわせて)ポートフォリオの在り方見直し・検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	